

令和 6 年度学長裁量経費採択課題（詳細内容）

教職実践力向上重点研究費

公募分野	代表者		テーマ
2	特別支援教育講座	小倉 靖範	知的障害特別支援学校におけるICTを活用した「令和の日本型学校教育」に資する授業に関する実践研究
プロジェクト概要（1）		特別支援教育においては、自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを踏まえて、生活上・学習上の困難を改善・克服するための適切な指導・支援が求められる。さらに、新学習指導要領の趣旨に基づく「令和の日本型学校教育」においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立が期待されている。 特別支援学校においては、これまでも個別の指導計画の作成等、個別最適化の取組については、充実が図れてきている。一方で、「協働的な学び」については、知的障害児や自閉症児のコミュニケーションや社会性の発達上の課題から困難であると捉えられ、その実践事例等は少ない。 藤原義博（2012）は、特別支援学校において、幼児児童生徒が自立的・主体的に授業に参加し、子ども同士が協同して学習に取り組める授業の在り方について、①参加機会の少なさ、②学習機会の乏しさ、③協同的学習機会の希薄さ、④評価機会の不十分さの4点を課題として挙げ、児童生徒が「わかって動ける」授業づくりを提唱している。 研究代表者は、平成23年～平成25年度に当時、研究開発学校であった筑波大学附属久里浜特別支援学校において、先に示した藤原（2012）の「特別支援学校における幼児・児童の協同的学習を育む授業研究」（科学研究費助成事業：基盤研究（C）課題番号：22531056）に教諭として参画した。また、本学附属特別支援学校においても、近年、研究代表者によるコンサルテーションを受けながら、「わかって動ける」授業づくりのための5つの視点（物理的環境支援・補助的手段・人的支援・学習機会の在り方・多様な評価：以下、「授業づくりの5つの視点」とする）に基づく授業改善を進めてきている。	

プロジェクト概要（２）	そこで本研究では、これまでの本学附属特別支援学校における授業づくりの５つの視点に基づく授業改善を継続しつつ、「令和の日本型学校教育」と「GIGAスクール構想」の実現に向けた授業づくりを展開し、特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合した授業について実践研究を進めることとした。具体的には、以下の３点に取り組むこととする。 ①児童生徒の授業への自立的・主体的な参加を促すために、授業づくりの５つの視点から授業改善プランを検討する。特にICTの活用に焦点を当てて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の補助的手段としてのICTの活用方を愛知県内の特別支援学校や特別支援学級に還元する。 ②これまでに取り組んできた、大学と附属特別支援学校が、テレビ会議システム等を使って連携・協働しながらのコンサルテーションの充実を図る。 ③ICTの活用に関する先進校である熊本大学附属特別支援学校や名古屋市立南特別支援の協力を得て、附属特別支援学校におけるICT活用を促進させる。
研究の目的	本研究では、2020（令和２）年度から本学附属特別支援学校で取り組んできた授業づくりの５つの視点（物理的環境支援・補助的手段・人的支援・学習機会・多様な評価）に基づく授業改善を継続しつつ、「令和の日本型学校教育」と「GIGAスクール構想」の実現に向けた授業づくりとして、特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を融合した授業について以下の２点を研究目的として実践研究を進めた。 ①児童生徒の授業への自立的・主体的な参加を促すために、授業づくりの５つの視点から授業改善プランを検討する。特にICTの活用に焦点を当てて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の補助的手段としてのICTの活用方を愛知県内の特別支援学校や特別支援学級に還元する。 ②テレビ会議システムや協働学習支援アプリ等を使って、これまでに取り組んできた大学と附属特別支援学校の連携・協働を強化し、コンサルテーションの更なる充実を図る。

研究の方法	【取組１】ICTの活用場面の拡大を図るための取組 附属特別支援学校では、今年度より協働学習支援機能をもつロイロノート・スクール（LoiLo社）とコラボノートEX（JR四国ソリューション）を本格的に導入した。導入に当たっては、5月～6月に各学部で取り組んだ研究授業の事後検討会において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を促進させるためのICT機器の活用に関する助言を研究代表者が行った、また研究代表者が、ICTの活用に関して直接、附属特別支援学校での授業のサポートに入ったり、教職員に向けてワークショップ型の研修会を開催したりするなどした。更に、中学部と高等部では、大学のICT活用等普及推進統括部門の協力を受け、試行的にプログラミング教育を実施した。 【取組２】テレビ会議システムの更なる活用 附属特別支援学校では、2020（令和２）年度に大学と附属特別支援学校をテレビ会議システムを使ってオンラインで結ぶシステムを導入し、附属での授業の様子を大学においてリアルタイムで視聴できる環境を整備してきた。今年度は、集音環境の向上を図るために、360度集音できる専用バウンダリーマイクを導入し、複数人が同時に話をしても音声がかクリアに聞こえるように改善した。
研究の成果	【取組１】授業づくりの５つの視点における「支援ツール（補助的手段）の活用によって児童生徒の参加機会や課題遂行を高める」という指導仮説に基づき、授業検討会やコンサルテーションの機会を通して、附属特別支援学校教員とともに、ICT活用の授業アイデアを検討した。結果、全校的にロイロノート・スクールが活用されるようになり、授業改善につなげることができた。その成果を第55回特別支援教育研究協議会（2024年11月8日）にて授業公開し、広く地域に還元した。 【取組２】集音環境を改善したことにより、大学においても、より快適な環境での視聴が可能となった。大学において、附属特別支援学校の授業の様子をリアルタイムで視聴し、その後、模擬授業研究会を行うなど、附属特別支援学校を活用した大学の授業づくりを進めることができた。